

堆肥活用
の効果

- 堆肥を連用することで、土壌中の有機物が増加した。その影響で地力が向上し、堆肥活用前と比較して、明らかに米・麦の収量が増加した。
- 主食用水稻は増収し、飼料用稲のわら収量も増加した（ロール数が倍近く増えたところもある）。
- 堆肥連用によって地力向上が図られると、肥料を減肥しても稲の生育に問題なく肥料代を削減することが可能となった。

堆肥活
用前の
課題

- 堆肥活用前は、麦わらのみの還元（稲わらは持ち出し）で、有機物や土壌改良資材の施用もほとんどなく、地力低下によって水稻、麦の収量が減少していた。

機械等

- マニユアスプレッダ

農業者のプロフィール

農業者名（法人名・組織名）
塩田町美野地区

作物名
水稻、飼料用稲、麦

栽培面積
20ha

所在地
嬉野市塩田町

堆肥散布を身近にするために



堆肥散布後の圃場

桑原畜産も堆肥の散布を請け負っているが、足りないと感じた人には機械を貸し出しており、地域の人が堆肥散布をしやすい環境を作っている。

堆肥化期間短縮で回転率上昇



ブローワーを導入することで堆肥化にかかる期間を短くし、耕種農家が欲しいタイミングで供給できるようにしている。

耕畜連携の体制図

桑原畜産から生産量が上がるという話を聞き、また散布まで行ってくれるという事から堆肥を入れ始めた。

畜産農家



耕種農家



使用量：2～5 t /反
 運搬方法：トラック
 散布方法：マニユアスプレッダー
 その他
 堆肥を入れるので、化成肥料の量を減らすことができた。特に問題はないのでコストカットに繋がった。

堆肥ニーズの年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												
						40t(20ha)						

活用した耕種農家の感想



堆肥を連用することで、地力が向上し肥沃な土壌となって増収した。

畜産農家からの感想



堆肥の受け口が増えたことで、滞留して困ることが少なくなった。

今後の目標・方向

堆肥を入れると米のできあがり全然違うと実感したので、自分たちの部落だけではなく他の部落にも勧めていきたい。